

令和4年度 倉敷市立倉敷翔南高等学校 学校評価書

2023.02.20(月)

【学校経営目標・計画】

◎社会人として自立するための力(3つの力)をつける

自分と向き合う力・社会に通用する人間性を養う 自分を高める力 …目標実現に必要な学力・積み続ける力をつける 他者とつながる力…他者とつながり、社会に貢献する力をつける

1 翔南授業ルールを核とした授業の充実	2 キャリア教育のいっそうの充実	3 特別活動の充実	4 よりよい人間関係づくり、社会貢献、社会参画の推進	5 魅力ある学校づくり
<ul style="list-style-type: none"> 生徒が学びの主体となる「わかる授業」 ICT環境を活用した授業、学び直しを考えた授業、授業のUD化 	<ul style="list-style-type: none"> 産業社会と人間、インターンシップ、企業研究、STEP等を核とした教科横断的指導 キャリアパスポートを活用した継続的指導 	<ul style="list-style-type: none"> ホームルーム活動、学校行事、委員会活動、生徒会活動等への積極的参加の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ライフスキルトレーニング、UP！等 カウンセリングウィーク、アンケート等を中心とした生徒理解 社会で通用するマナー、コミュニケーション力を育成する取組 健康・安全教育、苦手を克服する力、継続力を育成する取組 地域連携活動、ボランティア活動、就業体験、実習等 	<ul style="list-style-type: none"> 新教育課程の円滑な実施 本校の特色、魅力の発信、倉敷市立高等学校体制整備基本計画（R3～6）への対応

4段階評価(A:目標を十分に達成 B:ほぼ目標を達成 C:やや不十分 D:改善を要する)

担当 (分掌・年次)	評価項目(具体的な計画)	今年度の達成基準	自己評価(中間)		自己評価(最終)		総合評価	改善方針	学校関係者評価
			達成状況	評価	達成状況	評価			
1	教務課	<ul style="list-style-type: none"> 翔南授業ルールの徹底 わかる授業の研究と実践 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に社会人として自立する力をつけるために、翔南授業ルールをすべての授業で徹底する。(翔南授業ルールアンケートにより検証) 学校自己評価アンケート 「授業は分かちやすく工夫されている。」(生徒)⇒普通以上の回答を80%(昨年度75%)以上とする。 「授業公開・授業評価を行い、結果を授業力向上に活かしている。」(教職員)⇒肯定的回答を90%(昨年度92%)以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 6月の教員アンケート結果では、翔南授業ルールはほぼ全ての授業で実践されていると判断できる。さらに、ルールを定着させ、指導の徹底を図るとともに「わかる授業」が実施されるように働きかけていきたい。 5月のオープンクラスウィーク(授業公開期間)で、互いの授業参観を行った。また、10月にも実施する予定である。授業参観結果のフィードバックにより、授業改善の視点が多く得られることから、引き続き、実践の推進を図りたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 12月の生徒への授業アンケートにより、翔南授業ルールの各項目についての「普通」以上の回答は、ほぼ95%前後となっている。翔南授業ルールは昨年同様定着していると判断できる。 <学校自己評価アンケート>(肯定的回答) (生徒)「授業は分かちやすく工夫されている。」→81%(昨年度比6ポイント増) (教職員)「授業公開・授業評価を行い、結果を授業力向上に活かしている。」→96%(昨年度比4ポイント増) 5月、10月にはオープンクラスウィークで相互の授業参観を行った。(教員一人当たり授業参観数 5月2.0 → 10月2.24) 	A	<ul style="list-style-type: none"> 積極的な働きかけ等をさらに行い、「翔南授業ルール」のより一層の定着を図るとともに、教科に対する興味・関心を高め、「わかる授業」が実践できるよう、校内の授業力向上研修を充実させたり、より積極的に他校の公開授業へ参加したりして授業改善を進める。 	
	生徒課	<ul style="list-style-type: none"> 規則やマナーを身につけ、集団の中で思いやりを持った適切な行動がとれる力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケート (生徒)「言葉遣いや服装、日常生活のマナーが身につくように指導してくれる。」⇒肯定的回答を80%(昨年度79%)以上とする。 (教職員)「社会生活のマナーとして、言葉遣い・挨拶・集団での行動様式の指導ができています。」⇒肯定的回答を85%(昨年度83%)以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 4月の生徒指導に関するオリエンテーションと4月5月の先生方の細やかな指導で、特別指導件数は過去最少である。 頭髪指導違反者数も減っていて、指導に従わない生徒はほとんどいなくなり、指導の効果が表れている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 1年生に対して年度当初に学校生活のガイダンスを昨年同様に行った。全体的に効果は表れていて落ち着いている。 生徒に寄り添った粘り強い指導により指導件数や頭髪指導違反者の数が減少しており、落ち着いた学校生活を送っている。 <学校自己評価アンケート>(肯定的回答) (生徒)「言葉遣いや服装、日常生活のマナーが身につくように指導してくれる。」→85%(昨年度比6ポイント増) (教職員)「社会生活のマナーとして、言葉遣い・挨拶・集団での行動様式の指導ができています。」→89%(昨年度比6ポイント増) (教職員)「全教職員の共通理解に基づいた生徒指導ができています。」→89%(昨年度比4ポイント増) 	A	<ul style="list-style-type: none"> なぜ規則やマナーを守る必要があるのか、集団生活をするうえで大切になければならないこと等を集会やHRで説明して理解させていく。 	
	1年次	<ul style="list-style-type: none"> 翔南授業ルールを実践し、規範意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業準備を完了し、開始時間を迎える。(昨年度1年次98%) 授業の前後できちんと挨拶ができる。(昨年度1年次86%) 校則を意識して学校で生活できている。(昨年度1年次91%) ⇒3項目とも年次アンケートにて肯定的回答を70%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 開始時間までに準備物と服装が完全にできている生徒は8割程度。服装については教員の声掛けでは素直に従うが、挨拶までしばらく待っている。 挨拶はできているが、今後も指導が必要。 校則について、頭髪や無断早退等で指導もあったが、全体的には守ることを意識して学校生活を送っている。 先生方は授業の中での生徒指導にも力を注いでいる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> <年次アンケート>(肯定的回答) 「授業準備を完了し、開始時間を迎える。」→89.1%(昨年度比9ポイント減) 「授業の前後できちんと挨拶ができる。」→78.3%(昨年度比8ポイント減) 「校則を意識して学校で生活できている。」→80.4%(昨年度比11ポイント減) 目標を達成できた。昨年度の生徒より低いが、今後も継続した指導が必要である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 社会に出て通用する礼儀・マナーを身につけることを意識させながら指導をする必要がある。 	
	2年次	<ul style="list-style-type: none"> 翔南授業ルールを実践し、主体的に学ぶ態度を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業前後で、きちんと挨拶ができる。(昨年度2年次71%) 社会に出て通用する礼儀・マナーが身についている。(昨年度2年次83%) 授業で「わかる」ことが増えている。(昨年度2年次89%) ⇒3項目とも年次アンケートにて肯定的回答を70%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に授業前後での挨拶について、礼はできるが大きな声での挨拶まではできていない。継続的な声掛けを続けていく。 職場体験に参加できた生徒については、礼儀とマナーの向上がみられた。10月のクラス発表で全体にフィードバックしていきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> <年次アンケート>(肯定的回答) 「授業の前後できちんと挨拶ができる。」→83.6%(昨年度比12ポイント増) 「社会に出て通用する礼儀・マナーが身についている。」→89.1%(昨年度比6ポイント増) 「授業で「わかる」ことが増えている。」→87.3%(昨年度比2ポイント減) 3項目とも目標を達成できたが、今後も指導が必要である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> きちんとあいさつの「きちんと」の定義を明確かつ具体的に定める必要がある。 社会に出て通用する礼儀・マナーについても上記同様。 	
	3年次	<ul style="list-style-type: none"> 翔南授業ルールを徹底し、自己管理能力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業前後で、きちんと挨拶ができる。(昨年度3年次75%) 社会に出て通用する礼儀・マナーが身についている。(昨年度3年次88%) 授業で「わかる」ことが増えている。(昨年度3年次92%) ⇒3項目とも年次アンケートにて肯定的回答を80%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 就職活動等の指導を通じ、社会で通用する礼儀・マナーの修得に重点的に取り組んだ。引き続きの指導が必要であるが、就職指導や進学指導に熱心に取り組む生徒が多く成果をあげている。 個々の生徒の意識の向上がみられることから、卒業に向けて継続して指導の充実を図りたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> <年次アンケート>(肯定的回答) 「授業の前後できちんと挨拶ができる。」→90%(昨年度比15ポイント増) 「社会に出て通用する礼儀・マナーが身についている。」→93%(昨年度比5ポイント増) 「授業で「わかる」ことが増えている。」→91%(昨年度比1ポイント減) 3項目とも目標を達成できた。また、「授業準備をして授業開始をむかえる。」が97%など3年間の指導の成果が見られた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> アンケート項目について肯定的意見は9割に達しているため、できているという自覚を生徒はもっている。生徒の「できる」と社会生活での「できる」の差を今後どれだけ埋められるかが課題である。 	
4年次	<ul style="list-style-type: none"> 自己管理能力を高め、社会に通じる力を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> 全員が目標単位を取得し、卒業を目指す。(昨年度4年次100%) 	<ul style="list-style-type: none"> 2名卒業予定である。 生徒一人一人との個別面談や家庭との連携により、個々の目標に応じた学校生活を送ることができている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 2名とも目標単位を取得し、卒業予定である。 保護者と密に連携し、自己管理能力を高め、社会に通じる力が身につけるよう支援できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、教育相談室やSC・SSWと連携して個別支援を行う。 		

担当 (分掌・年次)	評価項目(具体的な計画)	自己評価(中間)		自己評価(最終)		総合 評価	改善方策	学校関係者評価	
		今年度の達成基準	達成状況	評価	達成状況				評価
2	進路課	・産業社会と人間、職場見学・体験・オープンキャンパス、企業研究などを通して進路意識を高め、生徒一人ひとりの適性に合った進路指導を実践する。 ・各年次と連携し、キャリアサポートを活用した継続的なキャリア教育を行う。	・卒業見込生徒のうち、就職希望者と進学希望者が100%進路決定して卒業できるようにする。(昨年度就職87% 進学100%) ・職場見学・体験・オープンキャンパスなどに参加した生徒の90%以上が進路意識が高まる。(実施前後の意識調査実施) ・進路希望調査で「未定」と答える生徒の数を20%以下にする。(昨年度25%)	・卒業見込み生徒の進路活動では、進学希望者はほとんどの生徒が志望校が決定し、すでに合格をいただいている生徒もおり順調に進んでいる。就職希望者は次の就職試験に出願した生徒は85%程度内定であった。今後1次で内定が出なかった生徒と就職活動これから参加する生徒の指導を進めていきたい。2年次のキャリアトレーニングでは積極的に活動ができた生徒もいたが、体験の受け入れ先の不足や業種の問題もあった。	・卒業見込み生徒は進学希望者は100%、就職希望者は94%(34人中32人が内定、現在活動中5名)が決定した。 ・2年次のキャリアトレーニング後の調査で「進路実現にむけて意欲的にチャレンジした。」の項目は、66%が高まったと回答した。 ・進路希望調査で「未定」と答える生徒(1.2年次)は4月には38%だったが11月は29%となった。	B	B	・就職活動が現在までずれ込んだ。成績面の努力不足と働く自分をイメージできていないのではないかと。キャリアトレーニングの受け入れ要因が少なかったことが数値の上がらない要因の1つと考えられる。来年度はできるだけ多くの生徒の体験受け入れができる企業を開拓すること、ジョブフェアへの参加など企業を知る機会を増やしていくことをしていきたい。	
	2年次	・インターンシップなどの学校行事に主体的に参加し、進路実現に必要な力をつける。	・インターンシップ等進路行事の参加率を90%以上にする。(昨年度インターンシップ未実施) ・自分の進路実現に向けて、意欲的にチャレンジしている。(昨年度2年次46%) ⇒年次アンケートにて肯定的回答を70%以上とする。	・進路希望が明確な生徒もいるが、多くははっきりとした目標が定まっていなかった。今後の進路ガイダンスなどの行事を通じて進路意識を高めていきたい。 ・今年度新たにキャリアトレーニングとして長期休業中に職場体験や職業調べを行い、各自目的を持ち取り組んでいる。	・<年次アンケート>(肯定的回答) 「自分の進路実現に向けて、意欲的にチャレンジしている。」 →65.5%(昨年度比19ポイント増) 「自分の進路目標(夢)ははっきりしている。」 →65.5%(昨年度比8ポイント増) ・目標を持ち準備を進めている生徒数が昨年度より増えているが、70%までは到達しなかった。今年度は初の試みとして長期休業中にキャリアトレーニングを行い、事前事後指導の効果があったと考えられる。参加率はほぼ100%となった。	B	B	・コロナ禍と同様の社会情勢でも対外的活動を実施できる方策の検討、実施。 ・進路実現に向けて進路課と連携した行事を通して集団意識高揚。	
	3年次	・進路意識を高め、企業研究等を通して進路実現に必要な力をつける。	・卒業見込み生徒(78名)のうち、進路決定をした生徒の割合を85%以上とする。(昨年度3年次約90%) ・年次会議等で生徒情報を共有し、進路課と連携し、生徒一人ひとりに適した支援を行う。 ・自分の進路実現にむけて、意欲的にチャレンジしている。(昨年度3年次77%) ⇒年次アンケートにて肯定的回答を80%以上とする。	・面接練習を早めに回数を確保した結果、準備が落ち、着いてきた就職試験を受ける段階まで進んだ生徒は就職希望者の約半分であったが、一生懸命に取り組み、多くの生徒が希望の進路を実現できた。進路に関しては逐一情報共有し、個々にあった進路先を提案できるように相談できた。	・卒業後の進路が完全未定者は11名。 ・卒業見込み生徒は73名のため84.9%が進路決定できた。 ・<年次アンケート>(肯定的回答) 「自分の進路実現に向けて、意欲的にチャレンジしている。」 →87%(昨年度比10ポイント増) ・卒業後の進路について考え行動する生徒が多かった。卒業がせまる12月ころから就職未決定者の多くが活発に活動し、多くの生徒が内定をいただくことができた。	B	B	・進路を決定させて卒業したいという生徒が多く、年を越しても進路活動を積極的にできている。年度末まで粘り強く対応し、できる限りの援助をする。	
3	生徒課	・生徒会活動を通じて集団や社会の一員としてより良い学校生活づくりに参加することにより自主的、実践的な態度を育てる。	・生徒会役員が自主的に文化祭企画・立案、実施できる力を養い、集団への所属感や連帯感を深める。 ・各種委員会活動(8委員会)年間複数回以上活動し、学校の一員としての役割や責任を果たそうとする。	・高梁川流域人材育成事業では生徒会執行部の生徒が活発に活動している。 ・文化祭企画も生徒が中心となり計画実施をしている。 ・各種委員会は昨年度より活発に活動ができています。翔南タイムでは、1年生が意欲的に活動している。	・高梁川流域人材育成事業で校外に出かけて調査をして成果物ができたことにより、生徒に自信を持たせた。 ・文化祭の企画実施や20周年記念式典・全校集会等の司会をしてリーダー的素養を育てることができた。 ・1年次の翔南タイムで委員会活動が行われ徐々に活動が活発になってきている。	B	A	・翔南タイムが来年度は1・2年次での実施となるため、より活発な活動ができる。 ・生徒会執行部の指導も翔南タイム等を活用しながら、今年度以上に充実させるようにする。	
4	生徒課	・思いやりを持った行動ができ、他者のために積極的に活動ができる生徒を育成する。	・学校自己評価アンケート(生徒)ボランティア活動等の体験学習に積極的に参加できるようにしている。」 ⇒肯定的回答を70%(昨年度63%)以上とする。	・ボランティア活動はコロナ感染症対策のため、募集が少なく活躍の場が少ないが、翔南タイムのボランティア活動には積極的に活動してくれる生徒が多い。コロナ禍の今後の状況が好転することを期待する。 ・10月はスポーツ大会があり、11月は文化祭があり、クラスの準備活動が活発になるため、他者を思いやり応援する心が育つよう助言・指導していく。	・コロナ感染症対策の影響でボランティアの募集は依然として少ないが、校外のボランティア募集が増加してきた。校内では美化活動や花を栽培して近隣の団体への寄付活動などができた。 ・<学校自己評価アンケート>(肯定的回答) (生徒)「ボランティア活動等の体験学習に積極的に参加できるようになっている。」 → 68%(昨年度比5ポイント増)	B	B	・ボランティア活動の機会が増加できるよう学校外のボランティア活動の情報収集に努める。	
	厚生課	・保健指導により、心身ともに健全な生活習慣を身につけさせるとともに、主体的に心と体の健康を守ろうとする意識を育む。	・ホームルーム活動や委員会活動を通じて、主体的に心と体の健康を守ろうとする態度を育てる。 ・健康意識アンケートを実施 「自分は健康だと感じていますか。」 ⇒肯定的回答を70%以上とする。	・ホームルーム活動や委員会活動などあらゆる機会を通じて、手洗い、うがい、マスクの着用など、感染症対策の指導をしているが、厳守できていない生徒がいる。クラスターが起きないように、今後とも指導の強化をしていきたい。	・<健康意識アンケート>(肯定的回答) 「自分は健康だと感じていますか。」 →75.9% ・教室や手すりなどの消毒、授業中の換気、ホームルーム活動や委員会活動を通じての、手洗い、うがい、マスク着用などの指導など、感染症対策に取り組んだ。まだまだ不十分なところはあるが、生徒に感染症に対する意識は育って来ていると思われる。最近、感染力が強くなってきているので、クラスターが発生しないように、より一層注意していきたい。	B	A	・コロナの変異株により、より一層クラスター発生の危険性が増してきている。今後も、あらゆる機会を通じて感染症対策をしていきたい。	
	教育相談室	・ライフスキルトレーニングや「UP!」を通して、他者とつながる力を身につけ、よりよい人間関係を形成する。 ・生徒の個々の悩みや問題に対して、外部機関と繋げ、安心して過ごせる学校生活を実現する。	・カウンセリングワークやアンケートを通して、自己分析力を高めさせる。 ・ライフスキルトレーニングを活用し、コミュニケーション力を身に付けさせる。 ・夜間部では学校設定科目「UP!」を通して、社会的スキルを育成する。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の外部機関と連携し、好ましい人間関係作りや学校生活を支援する。	・新型コロナウイルス感染症対策で、コミュニケーショントレーニングを育成する時間が多く取れた。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーに繋がる事例が多いので、外部機関の力を借るながら支援していきたい。	・問題を抱えていた生徒の情報共有し、より多くの教員が関わる支援体制が整った。 ・<学校自己評価アンケート>(肯定的回答) (生徒)「困ったとき先生に相談すると、ていねいにに応じてくれる。」 → 80%(昨年度比4ポイント増) (生徒)「先生は、いじめなどの学校生活での問題について、ていねいに対応してくれる。」 → 78%(昨年度比4ポイント増) (教職員)「生徒状況についての情報交換など、生徒の把握に努めている。」 → 100%(昨年度比同) (教職員)「生徒からの相談や悩みへの訴えに対し、問題を解決できるよう援助や指導ができています。」 → 96%(昨年度比4ポイント減)	B	B	・多様な家庭環境の生徒への働きかけに努め、安心で安全な学校生活をサポートする。 ・感染症対策とコミュニケーショントレーニングの共存に努め、社会に対応できる力を身につけさせる。	
	1年次	・他者を思いやる心を持つとともに、コミュニケーション力をつける。	・HR活動・ボランティア活動を通して、よりよい人間関係を形成する。(昨年度1年次86%) ・「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」の授業を通して、「コミュニケーション能力」を伸ばす。(昨年度1年次84%) ⇒年次アンケートにて肯定的回答を70%以上とする。	・新型コロナウイルス感染症対策に留意しながら、コミュニケーショントレーニングを実施し、社会的スキルを育成する時間を多く取っている。 ・「総合的な探究の時間」や「産業社会と人間」の授業を通じて、クラスやクラスを越えた取り組みを積極的に行っており、生徒が意欲的に取り組んでいる。	・<年次アンケート>(肯定的回答) 「HR活動・ボランティア活動を通して、よりよい人間関係を形成する。」 →71.7%(昨年度1年次15ポイント減) ・「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」の授業を通して、「コミュニケーション能力」を伸ばす。」 →80.4%(昨年度1年次4ポイント減) ・目標を達成できたが、昨年度の生徒より低い。今後も継続した指導が必要である。	B	B	・多様な背景の生徒への対応を教育相談室などと連携しながら行い、落ち着いた学校生活を支援できるように努める。	
5	教務課	・広報活動の充実 ・新教育課程の円滑な実施	・翔南だより、ホームページなどを通して、本校の特色や活動を保護者や地域に発信する。 ・新学習指導要領での魅力ある教育課程を実施する。	・「翔南だより」や「ホームページ」等を通し、本校の活動を発信した。 ・8月にはオープンスクールは実施することができた。 ・新教育課程については、順調に実施ができています。さらに円滑に実施できるようにしていきたい。	・「翔南だより」や「ホームページ」等を通し、本校の活動を発信できた。 ・オープンスクールを実施し、体験授業等も行ことができた。 ・新教育課程について、順調に実施できた。	B	B	・新教育課程をさらに円滑に実施できるように新設科目実施を通して浮き彫りになった改善点を明確にし、来年度にいかす。 ・さらに積極的に本校の情報を発信していくための方法等を検討する。	

* 学校自己評価アンケート 質問項目⇒今年度目標値(昨年度数値)